

## 1 人口動態の概況（平成22年1月～12月）

### （1）出生数＜減少＞

出生数は59,437人で前年に比べ288人減少し、出生率は人口千人に対し8.4で、前年と比べ0.1ポイント低下した。

### （2）死亡数＜増加＞

死亡数は55,487人で前年に比べ3,113人増加し、死亡率は人口千人に対し7.8で前年と比べ0.4ポイント上昇した。

### （3）乳児死亡数＜減少＞

乳児死亡数は133人で前年に比べ7人減少し、乳児死亡率は出生千人に対し2.2で前年と比べ0.1ポイント低下した。

### （4）自然増加数＜減少＞

自然増加数は3,950人で前年に比べ3,401人減少し、自然増加率は人口千人に対し0.6で前年と比べ0.4ポイント低下した。

### （5）死産数＜減少＞

死産数は1,375胎で前年に比べ25胎減少し、死産率は出産(出生+死産)千人(胎)に対し22.6で前年と比べ0.3ポイント低下した。

### （6）周産期死亡数＜増加＞

周産期死亡数は252人(胎)で前年に比べ17人(胎)増加し、周産期死亡率は出産千人(胎)に対し4.2で前年に比べ0.3ポイント上昇した。

### （7）婚姻件数＜減少＞

婚姻件数は39,160件で前年に比べ239件減少し、婚姻率は人口千人に対し5.5で前年と比べ0.1ポイント低下した。

### （8）離婚件数＜減少＞

離婚件数は14,325件で前年に比べ259件減少し、離婚率は人口千人に対し2.02で前年と比べ0.05ポイント低下した。

表－1 人口動態の概況（対前年比較）

	埼玉県							
	平成22年	平成21年	増減	率			平均発生間隔	
				平成22年	平成21年	増減	平成22年	平成21年
							時 分 秒	時 分 秒
出生	59 437	59 725	△ 288	8.4	8.5	△ 0.1	8 51	8 48
死亡	55 487	52 374	3 113	7.8	7.4	0.4	9 28	10 2
乳児死亡	133	140	△ 7	2.2	2.3	△ 0.1	65 51 53	62 34 17
新生児死亡	62	65	△ 3	1.0	1.1	△ 0.1	141 17 25	134 46 9
自然増加	3 950	7 351	△ 3 401	0.6	1.0	△ 0.4	…	…
死産	1 375	1 400	△ 25	22.6	22.9	△ 0.3	6 22 15	6 15 26
周産期死亡	252	235	17	4.2	3.9	0.3	34 45 43	37 16 36
婚姻	39 160	39 399	△ 239	5.5	5.6	△ 0.1	13 25	13 20
離婚	14 325	14 584	△ 259	2.02	2.07	△ 0.05	36 41	36 2

## 2 各 論

### (1) 出 生

#### ア 出生数及び出生率

平成22年の出生数は59,437人で前年より288人減少した。

年次推移をみると、昭和48年の106,008人をピークに平成2年まで減少し続け、その後増加と減少をくり返していた。平成13年から5年連続減少し、平成18年は6年ぶりに増加したが、平成19年からは再び減少を続けている。

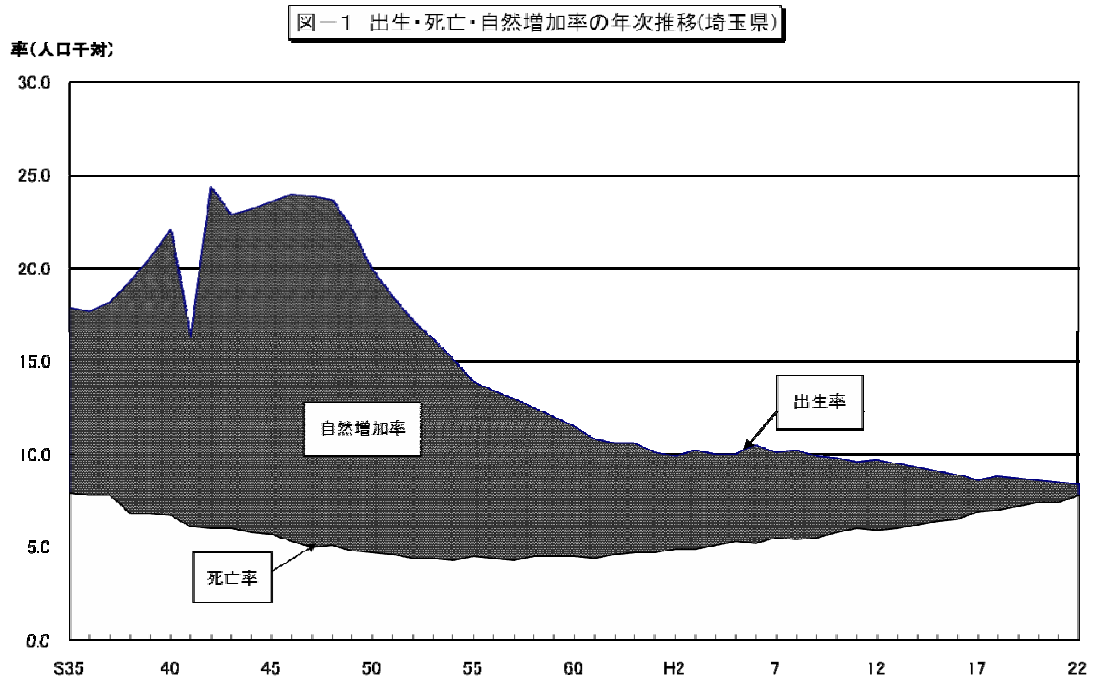
出生率は、人口千人に対し8.4で前年の8.5を0.1ポイント下回った。全国の出生率は8.5であった。

年次推移をみると、第2次ベビーブームの昭和46年の24.0以降低下を続け、平成元年に10.1となり、その後10.0前後で推移していた。平成13年から5年連続減少し、平成18年は6年ぶりに増加したが、平成19年からは再び減少を続けている。

なお、昭和41年にみられる出生率の低下は、丙午（ひのえうま）によるものである。

表－2 出生数及び出生率の年次推移

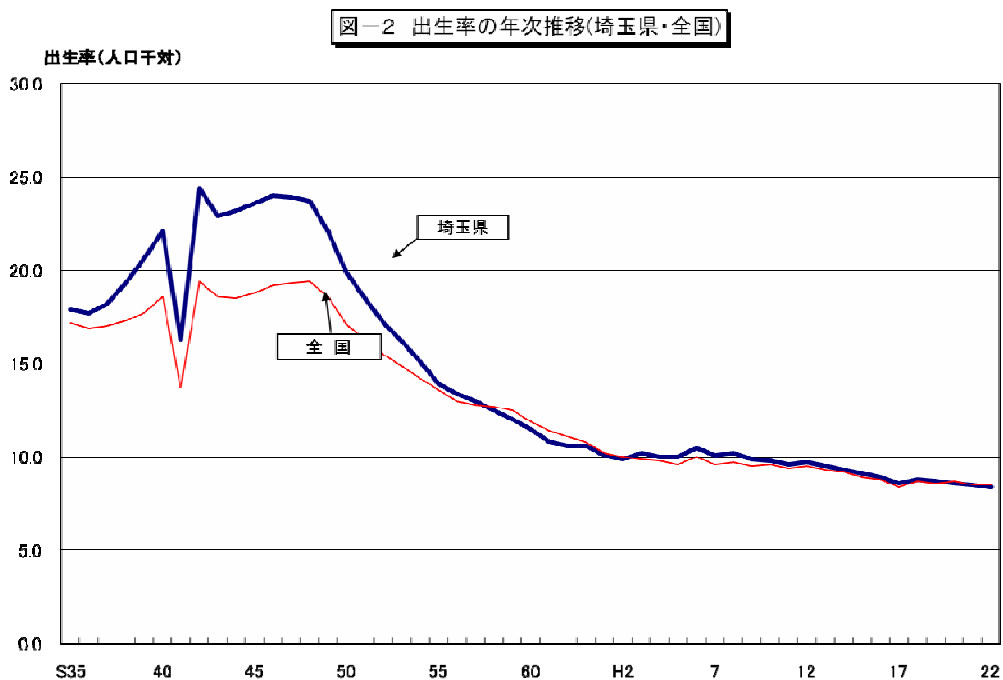
	S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	20	21	22
数													
埼玉県	43,421	66,585	91,113	96,033	75,080	67,260	63,299	67,750	66,376	59,731	60,520	59,725	59,437
全国	1,606,041	1,823,697	1,934,239	1,901,440	1,576,889	1,431,577	1,221,585	1,187,064	1,190,547	1,062,530	1,081,156	1,070,035	1,071,304
率													
埼玉県	17.9	22.1	23.6	19.9	13.9	11.5	9.9	10.1	9.7	8.6	8.6	8.5	8.4
全国	17.2	18.6	18.8	17.1	13.6	11.9	10.0	9.6	9.5	8.4	8.7	8.5	8.5



## イ 都道府県別にみた出生率

本県の出生率は、平成3年以降はわずかながら全国を上回る状態であったが、平成20年は再び全国を下回り、平成21年に同率となったものの、平成22年は再び下回った。

都道府県別にみると、本県は、昭和49年から昭和52年までは、高率順で沖縄県に次いで第2位であった。しかし、昭和53年以降順位を落とし昭和61年には41位まで下がった。その後回復し、平成7年には4位となったが、近年は、平成20年22位、平成21年20位、平成22年22位となっている。



表－3 都道府県別にみた出生率

	昭和60年			平成2年			平成7年			平成12年			平成17年			平成20年			平成21年			平成22年		
	都道府県名	率	順位	都道府県名	率	順位	都道府県名	率	順位	都道府県名	率	順位	都道府県名	率	順位	都道府県名	率	順位	都道府県名	率	順位	都道府県名	率	順位
	全 国	11.9		全 国	10.0		全 国	9.6		全 国	9.5		全 国	8.4		全 国	8.7		全 国	8.5		全 国	8.5	
高 率	沖 縄	17.6	1	沖 縄	14.0	1	沖 縄	13.2	1	沖 縄	12.8	1	沖 縄	11.9	1	沖 縄	12.2	1	沖 縄	12.2	1	沖 縄	12.3	1
	福 島	13.3	2	滋 賀	11.2	2	愛 知	10.6	2	愛 知	10.8	2	滋 賀	9.5	2	愛 知	9.9	2	愛 知	9.7	2	愛 知	9.6	2
	佐 賀	13.1	3	佐 賀	10.9	3	滋 賀	10.5	3	滋 賀	10.6	3	愛 知	9.4	3	滋 賀	9.8	3	滋 賀	9.5	3	滋 賀	9.6	3
	宮 城	12.9	4	福 島	10.8	4	埼 玉	10.1	4	大 阪	10.2	4	福 井	8.8	4	福 岡	9.3	4	福 岡	9.2	4	福 岡	9.3	4
	宮 崎	12.9	5	愛 知	10.7	5	山 梨	10.1	5	佐 賀	10.0	5	大 阪	8.8	5	佐 賀	9.2	5	広 島	9.0	5	広 島	9.0	5
	鹿 児 島	12.7	6	長 崎	10.6	6	福 井	10.1	6	兵 庫	10.0	6	神 奈 川	8.8	6	宮 崎	9.1	6	宮 崎	9.0	6	宮 崎	9.0	6
	滋 賀	12.7	7	福 井	10.6	7	福 島	10.0	7	神 奈 川	9.9	7	拆 木	8.7	7	熊 本	9.1	7	熊 本	9.0	7	佐 賀	9.0	7
	長 崎	12.7	8	鹿 児 島	10.5	8	大 阪	10.0	8	岡 山	9.8	8	佐 賀	8.7	8	鹿 児 島	9.0	8	佐 賀	8.9	8	熊 本	9.0	8
	拆 木	12.7	9	鳥 取	10.4	9	宮 崎	10.0	9	福 井	9.8	9	広 島	8.7	9	神 奈 川	9.0	9	神 奈 川	8.9	9	鹿 児 島	8.9	9
	熊 本	12.6	10	宮 城	10.4	10	神 奈 川	9.9	10	石 川	9.8	10	福 岡	8.7	10	広 島	9.0	10	福 井	8.8	10	神 奈 川	8.8	10
	埼 玉	11.5	34	埼 玉	9.9	29				埼 玉	9.7	15	埼 玉	8.6	18	埼 玉	8.6	22	埼 玉	8.5	20	埼 玉	8.4	22
低 率	富 山	10.7	1	高 知	8.7	1	秋 田	8.2	1	秋 田	7.6	1	秋 田	6.7	1	秋 田	6.7	1	秋 田	6.4	1	秋 田	6.2	1
	東 京	10.7	2	山 口	8.8	2	東 京	8.4	2	北 海 道	8.3	2	德 島	7.3	2	青 森	7.3	2	青 森	6.9	2	青 森	7.1	2
	秋 田	10.9	3	東 京	8.9	3	高 知	8.5	3	高 知	8.4	3	青 森	7.3	3	北 海 道	7.4	3	高 知	7.1	3	高 知	7.2	3
	高 知	11.1	4	秋 田	9.0	4	山 口	8.6	4	東 京	8.5	4	北 海 道	7.4	4	德 島	7.5	4	北 海 道	7.3	4	北 海 道	7.3	4
	京 都	11.1	5	富 山	9.0	5	島 根	8.8	5	島 根	8.6	5	高 知	7.5	5	高 知	7.5	5	岩 手	7.4	5	岩 手	7.4	5

### ウ 市町村別にみた出生率

市町村別にみると、高率順では、戸田市（12.0）、和光市（11.5）、朝霞市（11.0）、伊奈町（11.0）の順である。また、低率順では、東秩父村（3.6）、鳩山町（3.6）、ときがわ町（4.0）の順である。

表－4 市町村別にみた出生率（高率順）

埼 玉 県								
順位	市町村	出生率	順位	市町村	出生率	順位	市町村	出生率
1	戸田市	12.0	25	上尾市	7.9	49	松伏町	6.5
2	和光市	11.5	26	白岡町	7.9	50	北本市	6.4
3	朝霞市	11.0	27	三芳町	7.8	51	行田市	6.4
4	伊奈町	11.0	28	上里町	7.8	52	宮代町	6.2
5	八潮市	9.7	29	熊谷市	7.6	53	寄居町	6.1
6	鳩ヶ谷市	9.6	30	人間市	7.6	54	越生町	6.1
7	川口市	9.5	31	春日部市	7.6	55	嵐山町	5.8
8	富士見市	9.4	32	日高市	7.5	56	川島町	5.2
9	滑川町	9.3	33	加須市	7.4	57	長瀨町	5.2
10	さいたま市	9.2	34	桶川市	7.4	58	毛呂山町	5.1
11	鶴ヶ島市	8.9	35	蓮田市	7.4	59	美里町	5.1
12	新座市	8.8	36	狭山市	7.4	60	小川町	5.1
13	吉川市	8.8	37	羽生市	7.3	61	吉見町	4.8
14	川越市	8.8	38	神川町	7.3	62	ときがわ町	4.0
15	越谷市	8.8	39	鴻巣市	7.2	63	鳩山町	3.6
16	草加市	8.7	40	東松山市	7.2	64	東秩父村	3.6
17	志木市	8.7	41	秩父市	7.2			
18	ふじみ野市	8.4	42	杉戸町	7.1			
19	所沢市	8.4	43	横瀬町	7.1			
20	深谷市	8.3	44	久喜市	7.1			
21	坂戸市	8.2	45	皆野町	7.0			
22	蕨市	8.1	46	飯能市	6.9			
23	本庄市	8.1	47	幸手市	6.7			
24	三郷市	8.1	48	小鹿野町	6.6			

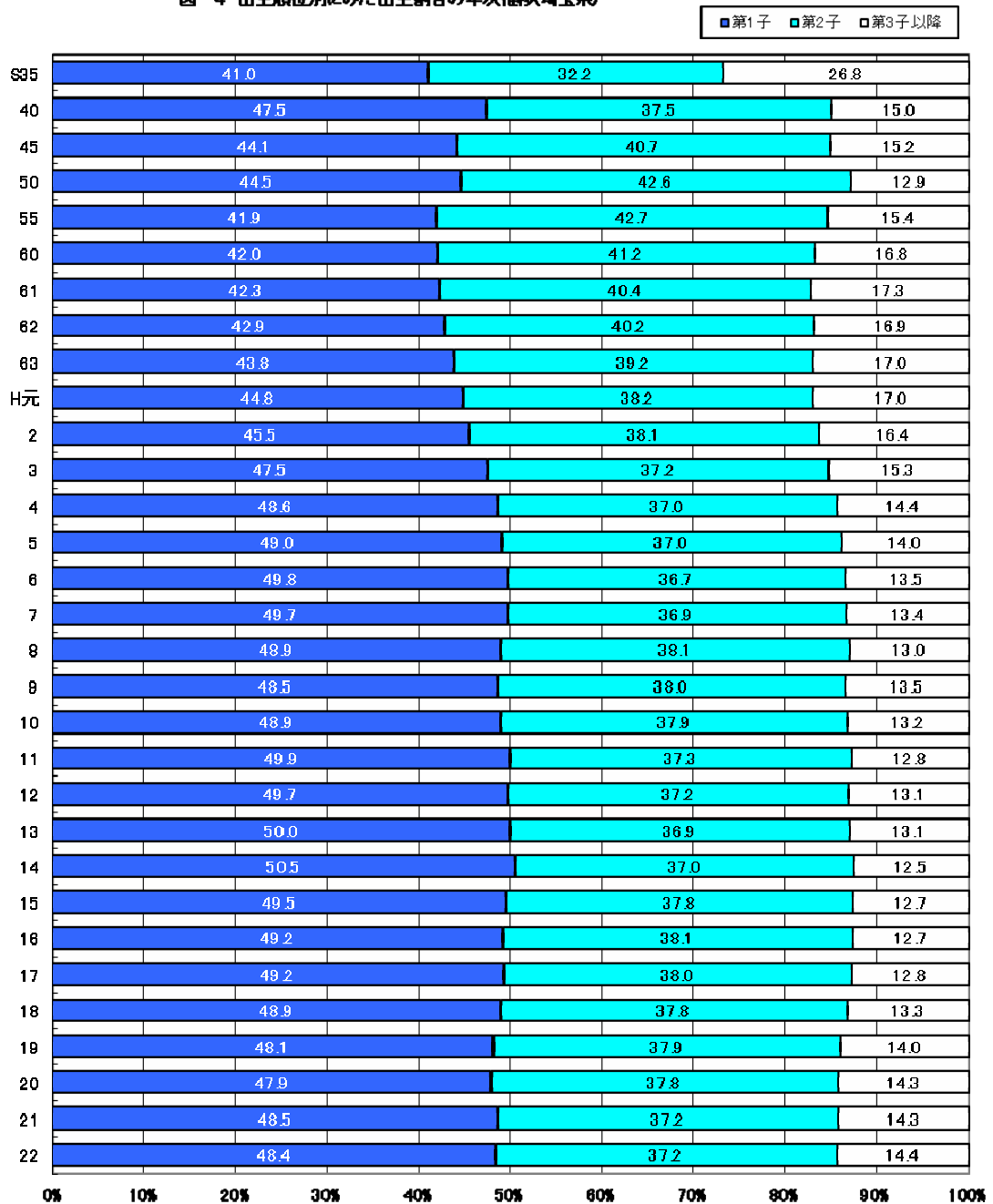
注 率は人口千対

## エ 出生順位別にみた出生の動向

出生順位別に出生数の構成割合の年次推移をみると、第1子の割合は昭和60年（42.0%）から平成6年（49.8%）まで増加を続けていた。しかし、平成7年以降は増減をくり返し、平成15年からは低下傾向にあった。平成21年は上昇したが、平成22年は低下した。

また、第2子の割合は昭和55年（42.7%）以降下降を続けていたが、平成6年以降平成8年（38.1%）をピークにやや上昇した。その後再び下降と上昇を繰り返し、ここ数年は37%前後で推移している。

図-4 出生順位別にみた出生割合の年次推移(埼玉県)



表－5 出生順位別にみた出生数及び構成割合の年次推移

	出 生 数						構 成 割 合					
	総 数	第1子	第2子	第3子	第4子	第5子 以 降	総 数	第1子	第2子	第3子	第4子	第5子 以 降
							%	%	%	%	%	%
昭和 35 年	43 421	17 794	13 987	6 817	2 669	2 154	100.0	41.0	32.2	15.7	6.1	5.0
40	66 585	31 602	24 975	7 438	1 699	871	100.0	47.5	37.5	11.2	2.5	1.3
45	91 113	40 199	37 067	11 411	1 768	668	100.0	44.1	40.7	12.5	2.0	0.7
50	96 033	42 762	40 901	10 521	1 376	473	100.0	44.5	42.6	11.0	1.4	0.5
55	75 090	31 468	32 049	10 060	1 172	341	100.0	41.9	42.7	13.4	1.6	0.4
60	67 260	28 252	27 684	9 749	1 271	304	100.0	42.0	41.2	14.5	1.9	0.4
61	64 392	27 236	26 020	9 533	1 258	345	100.0	42.3	40.4	14.8	2.0	0.5
62	64 496	27 647	25 956	9 347	1 201	345	100.0	42.9	40.2	14.5	1.9	0.5
63	65 396	28 638	25 612	9 512	1 280	354	100.0	43.8	39.2	14.5	2.0	0.5
平成 元 年	63 419	28 431	24 247	9 159	1 269	313	100.0	44.8	38.2	14.5	2.0	0.5
2	63 299	28 806	24 120	8 852	1 234	287	100.0	45.5	38.1	14.0	1.9	0.5
3	65 928	31 353	24 513	8 453	1 313	296	100.0	47.5	37.2	12.8	2.0	0.5
4	65 219	31 674	24 141	7 928	1 154	322	100.0	48.6	37.0	12.1	1.8	0.5
5	66 268	32 499	24 506	7 828	1 137	298	100.0	49.0	37.0	11.8	1.7	0.5
6	69 776	34 714	25 636	7 960	1 169	297	100.0	49.8	36.7	11.4	1.7	0.4
7	67 750	33 651	24 985	7 619	1 229	266	100.0	49.7	36.9	11.2	1.8	0.4
8	68 695	33 612	26 163	7 400	1 229	291	100.0	48.9	38.1	10.8	1.8	0.4
9	67 585	32 803	25 663	7 673	1 146	300	100.0	48.5	38.0	11.4	1.7	0.4
10	67 144	32 796	25 458	7 421	1 145	324	100.0	48.9	37.9	11.0	1.7	0.5
11	65 711	32 800	24 531	7 028	1 050	302	100.0	49.9	37.3	10.7	1.6	0.5
12	66 376	32 976	24 707	7 147	1 240	306	100.0	49.7	37.2	10.8	1.9	0.4
13	65 417	32 698	24 169	7 067	1 159	324	100.0	50.0	36.9	10.8	1.8	0.5
14	64 762	32 721	23 922	6 690	1 089	340	100.0	50.5	37.0	10.3	1.7	0.5
15	63 224	31 303	23 896	6 633	1 083	309	100.0	49.5	37.8	10.5	1.7	0.5
16	61 946	30 465	23 604	6 493	1 095	289	100.0	49.2	38.1	10.5	1.8	0.4
17	59 731	29 389	22 669	6 318	1 012	343	100.0	49.2	38.0	10.6	1.7	0.5
18	61 201	29 931	23 133	6 650	1 156	331	100.0	48.9	37.8	10.9	1.9	0.5
19	60 818	29 232	23 050	6 935	1 222	379	100.0	48.1	37.9	11.4	2.0	0.6
20	60 520	28 959	22 902	7 077	1 229	353	100.0	47.9	37.8	11.7	2.0	0.6
21	59 725	28 989	22 213	6 944	1 192	387	100.0	48.5	37.2	11.6	2.0	0.6
22	59 437	28 748	22 138	6 886	1 289	376	100.0	48.4	37.2	11.6	2.2	0.6

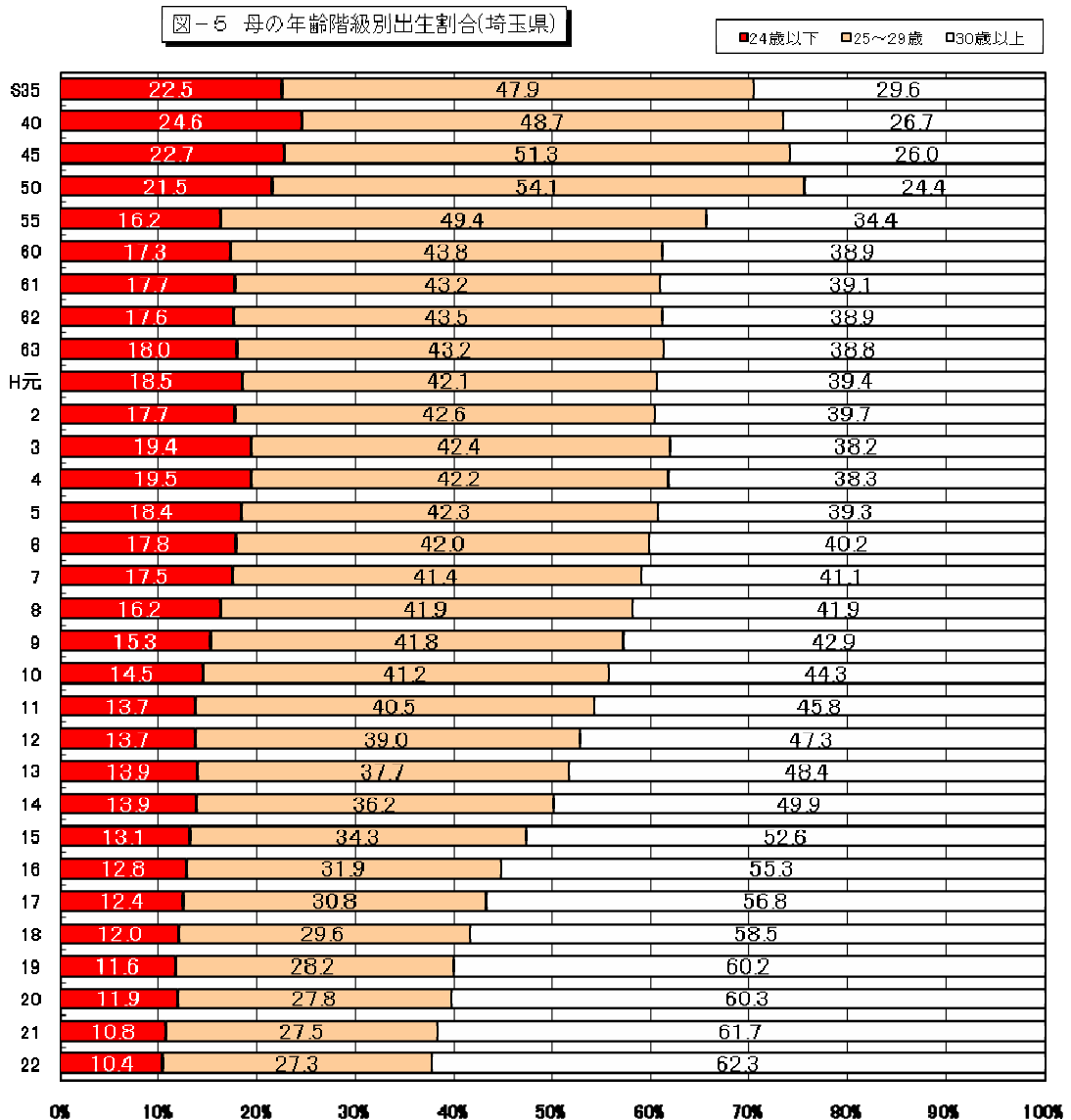
注 第5子以降には不詳を含む

## オ 母の年齢階級別にみた出生の動向

母の年齢階級別に出生数の構成割合をみると、25～29歳の母からの出生は昭和51年の57.0%をピークとして減少しており、平成22年は27.3%である。

また、24歳以下は平成5年以降減少傾向にあり、平成22年は10.4%で前年の10.8%を0.4ポイント下回った。

30歳以上は増加を続け、平成19年からは出生数全体の6割を超え、平成22年は62.3%となった。





## (2) 死 亡

### ア 死亡数及び死亡率

死亡数は55,487人で、前年より3,113人増加した。

死亡率は、人口千人に対し7.8で前年の7.4を0.4ポイント上回った。全国（9.5）より1.7ポイント低くなっている。

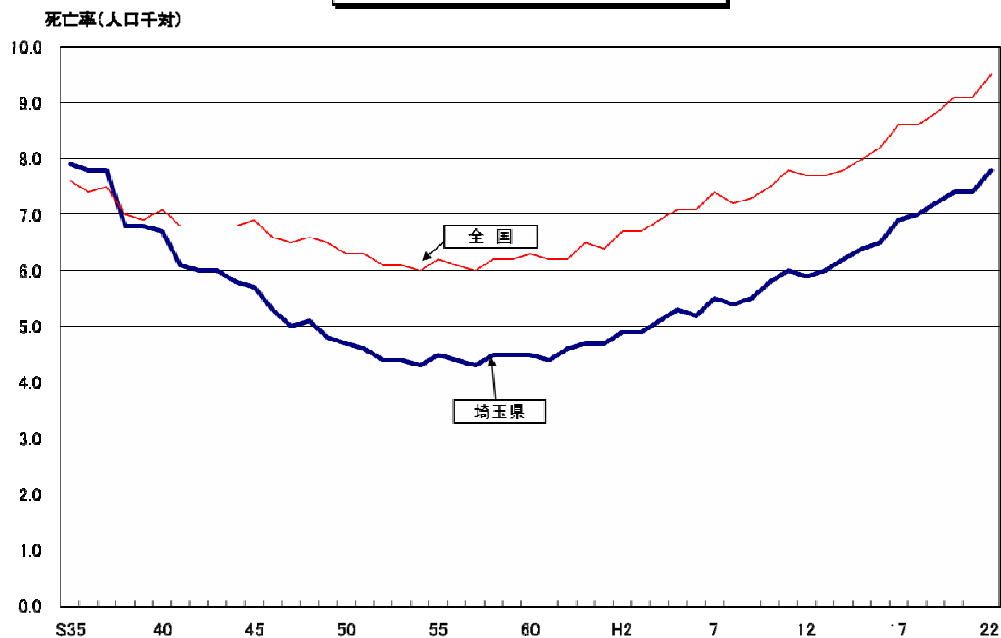
死亡率の年次推移をみると、昭和35年 7.9、45年 5.7、50年 4.7、55年 4.5と低下し、以降 4.5前後で推移していたが、昭和61年以降上昇傾向に転じた。

都道府県別にみると、本県の死亡率は昭和60年以降平成13年まで、昭和62年を除き低率順で第1位、平成14、15年は沖縄県に次いで第2位、16年からは沖縄県及び神奈川県に次いで第3位となっている。

表一 6 死亡数及び死亡率の年次推移

	S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	20	21	22	
数	埼玉県	19,089	20,117	21,836	22,688	24,129	26,417	31,222	36,799	40,486	48,085	51,730	52,374	55,487
	全国	706,599	700,438	712,962	702,275	722,801	752,283	820,305	922,139	961,653	1,083,796	1,142,407	1,141,865	1,197,012
率	埼玉県	7.9	6.7	5.7	4.7	4.5	4.5	4.9	5.5	5.9	6.9	7.4	7.4	7.8
	全国	7.6	7.1	6.9	6.3	6.2	6.3	6.7	7.4	7.7	8.6	9.1	9.1	9.5

図一 6 死亡率の年次推移(埼玉県・全国)



## イ 死因別死亡数及び死亡率

死因別にみると、死亡数は、①悪性新生物 17,058人(死亡総数の30.7%)、②心疾患 9,543人(17.2%)、③脳血管疾患 5,711人(10.3%)、④肺炎 5,514人(9.9%)、⑤自殺1,642人(3.0%)、⑥不慮の事故 1,635人(2.9%)となった。

また、死亡率(人口10万対)は、悪性新生物(240.1)が 5.3ポイント、心疾患(134.3)が 11.4ポイント、脳血管疾患(80.4)が0.5ポイント、肺炎(77.6)が5.9ポイント、不慮の事故(23.0)が1.5ポイント上昇し、一方で、自殺(23.1)が1.3ポイント低下した。

表ー 7 主な死因別死亡数及び死亡率(対前年比較)

埼玉県

死 因	平成22年			平成21年		
	数	率(人口 10万対)	死亡総数に 占める割合	数	率(人口 10万対)	死亡総数に 占める割合
総 数	55 487	781.0	100.0	52 374	743.8	100.0
悪性新生物	17 058	240.1	30.7	16 531	234.8	31.6
心 疾 患	9 543	134.3	17.2	8 655	122.9	16.5
脳血管疾患	5 711	80.4	10.3	5 629	79.9	10.7
肺 炎	5 514	77.6	9.9	5 050	71.7	9.6
自 殺	1 642	23.1	3.0	1 720	24.4	3.3
不慮の事故	1 635	23.0	2.9	1 513	21.5	2.9
老 衰	1 572	22.1	2.8	1 414	20.1	2.7
腎 不 全	1 066	15.0	1.9	977	13.9	1.9
肝 疾 患	842	11.9	1.5	803	11.4	1.5
糖 尿 病	669	9.4	1.2	689	9.8	1.3
小 計	45 252	636.9	81.6	42 981	610.4	82.1
そ の 他	10 235	144.1	18.4	9 393	133.4	17.9

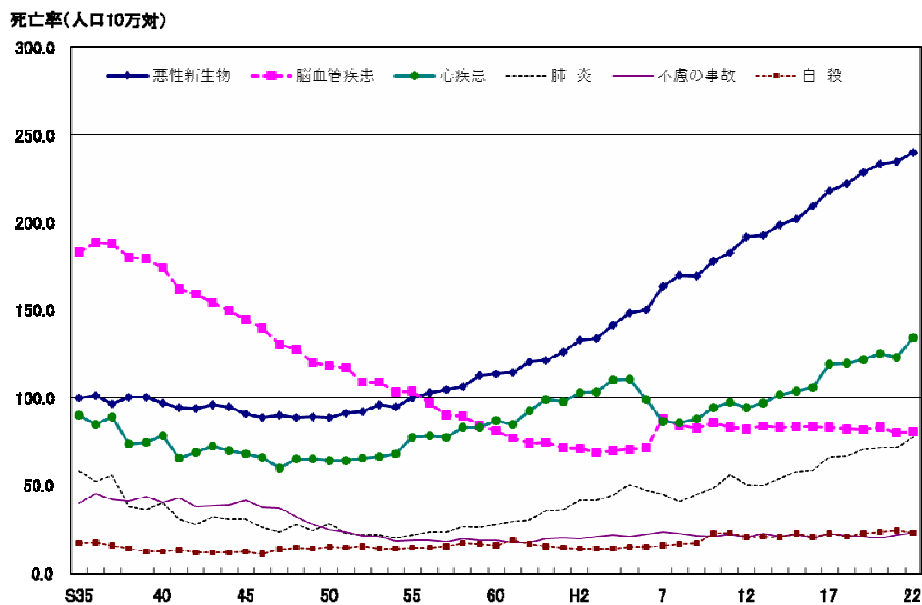
死因別に死亡率（人口10万対）の年次推移をみると、悪性新生物は昭和55年以降概ね上昇を続け、平成15年には200.0を超えた。また、昭和56年以降は死因順位第1位である。

心疾患は、緩やかに上昇しており、平成14年から100.0を越えている。

脳血管疾患は緩やかな低下傾向にある。

なお、平成6・7年の心疾患及び脳血管疾患の著しい変動は、死亡傾向が急激に変化したものではなく、死因分類（ICD-10）及び死亡診断書の改正によるものと考えられる。

図-7 主要死因別死亡率の年次推移(埼玉県)



※死因分類(ICD-10)及び死亡診断書の改正による影響

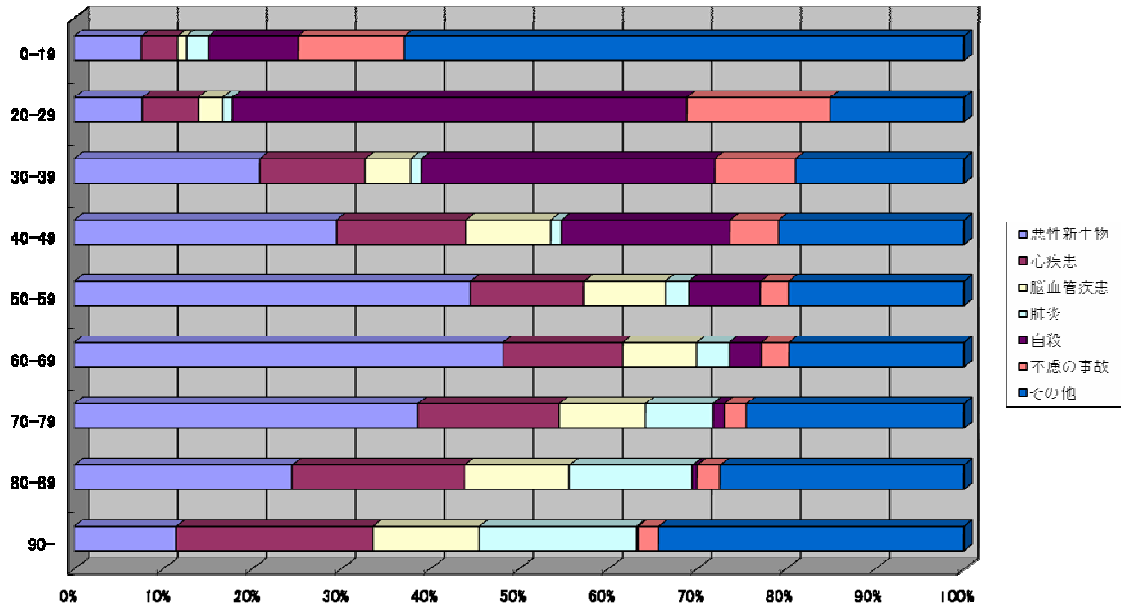
心疾患の平成6年から3年間は、大きく前年を下回っている。この低下は、平成7年1月施行の新しい死亡診断書（死体検案書）における注意書き「死亡の原因欄には、疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください」の影響が考えられる。

脳血管疾患は、平成7年は前年を大きく上回った。これは、死因分類の改正で、肺炎に影響を与えた疾患として脳出血を死亡原因とするようになった影響が考えられる。

なお、逆に肺炎は減少している。

年齢階級別に死因別割合をみると、10歳代まででは不慮の事故、20歳代、30歳代では自殺、40～80歳代では悪性新生物、90歳以上では心疾患の割合が最も高くなっている。

図-8 年齢階級別にみた主要死因別割合



ウ 3大死因（悪性新生物、心疾患、脳血管疾患）

死因別死亡数の上位を占める3大死因（悪性新生物、心疾患、脳血管疾患）による死亡数は32,212人で死亡総数の58.2%を占めている。

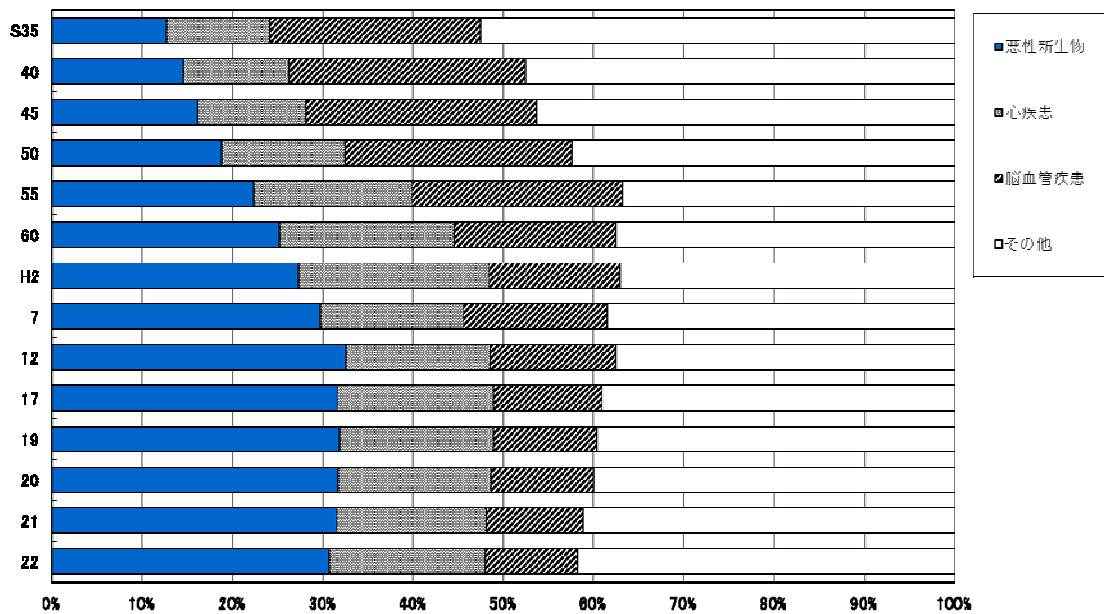
年齢階級別に3大死因による死亡数をみると、80～89歳の9,578人が最も多く、70～79歳の8,966人、60～69歳の6,206人の順である。

各年齢階級別の死亡総数に占める割合をみると、60～69歳が70.0%で最も高く、次いで50～59歳の66.4%、70～79歳の64.2%の順で前年と変わらない。

表ー8 3大死因による死亡数及び割合（年齢階級別）

埼玉 県										
	総数	0～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90～
死亡総数	55 487	318	366	825	1 483	3 274	8 868	13 963	17 213	9 177
3大死因による死亡数	32 312	40	61	312	794	2 175	6 206	8 966	9 578	4 180
(各年齢階級別割合)	100.0%	0.1%	0.2%	1.0%	2.5%	6.7%	19.2%	27.7%	29.6%	12.9%
死亡総数に占める割合	58.2%	12.6%	16.7%	37.8%	53.5%	66.4%	70.0%	64.2%	55.6%	45.5%

図ー9 3大死因死亡数の死亡総数に占める割合(埼玉県)



(ア) 悪性新生物（がん）

悪性新生物による死亡数は17,058人で、死亡総数の30.7%を占めている。全死亡者のおよそ3人に1人は悪性新生物で死亡したことになる。

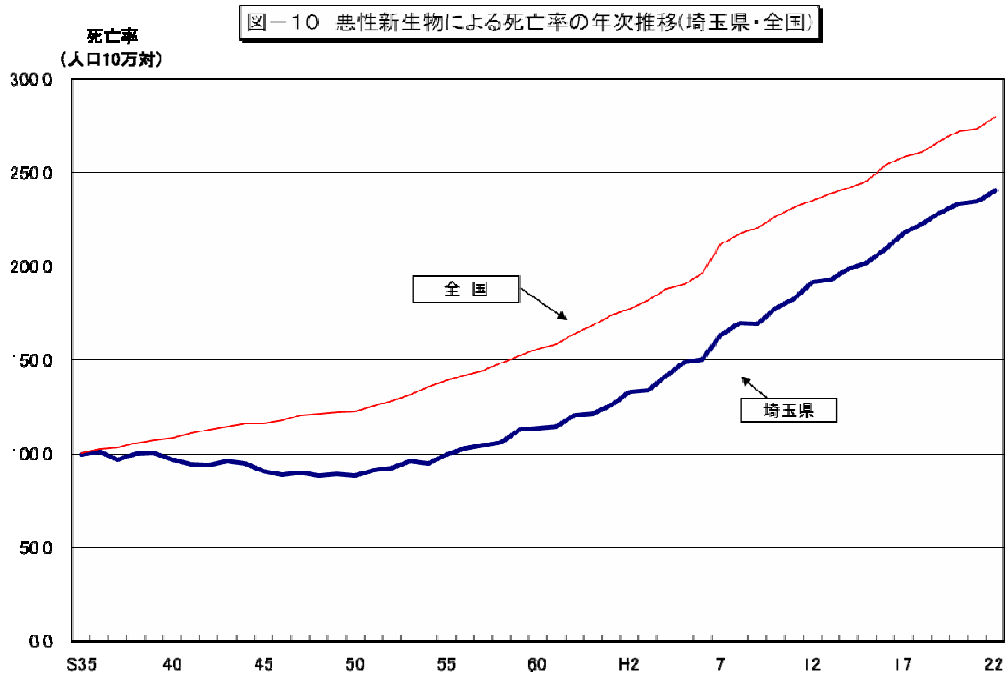
年齢階級別にみると、70～79歳が 5,395人で最も多く、60～69歳 が4,276人、80～89歳が 4,214人の順となっている。

また、各年齢階級の死亡総数に占める割合をみると、60～69歳が48.2%と最も多く、50～59歳44.5%、70～79歳38.6%の順となっている。

死亡率（人口10万対）は、240.1で上昇を続けている。全国は279.7である。

表－9 悪性新生物による死亡数及び割合（年齢階級別）

埼 玉 県										
	総数	0～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90～
死亡総数	55 487	318	366	825	1 483	3 274	8 868	13 963	17 213	9 177
悪性新生物による死亡数	17 058	24	28	172	437	1 458	4 276	5 395	4 214	1 054
（各年齢階級別割合）	100.0%	0.1%	0.2%	1.0%	2.6%	8.5%	25.1%	31.6%	24.7%	6.2%
死亡総数に占める割合	30.7%	7.5%	7.7%	20.8%	29.5%	44.5%	48.2%	38.6%	24.5%	11.5%



部位別にみると、「気管・気管支及び肺」が3,163人(18.5%)で最も多く、次いで「胃」が2,677人(15.8%)、「大腸」2,106人(12.3%)の順となっている。

図-11 悪性新生物の部位別割合の推移(埼玉県)

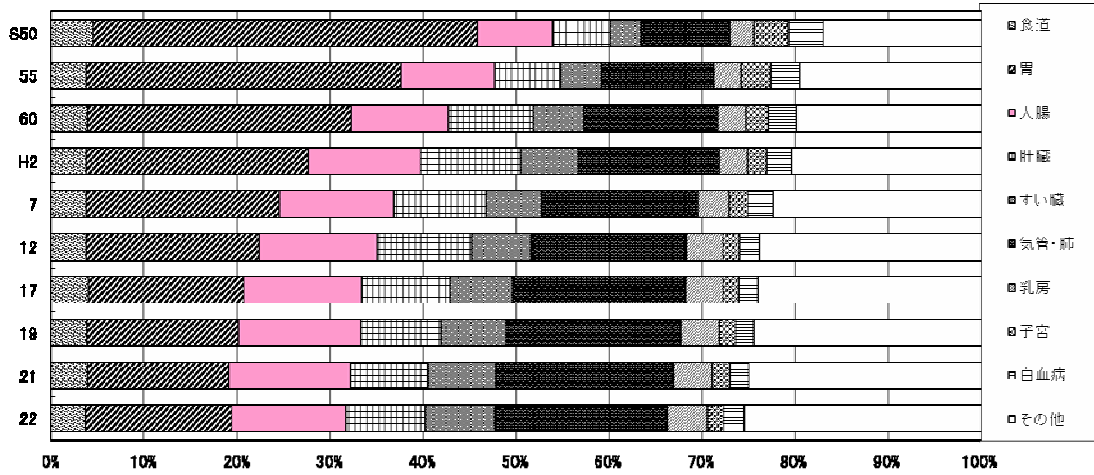


表-10 悪性新生物部位別死亡数及び割合の年次推移

	埼玉県												
	S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	21	22	
総数	2 426	2 914	3 508	4 265	5 404	6 665	8 518	10 942	13 163	15 190	16 531	17 058	
食道	120	142	183	192	207	264	321	420	500	614	658	635	
胃	1 272	1 393	1 535	1 763	1 830	1 891	2 036	2 268	2 450	2 534	2 507	2 677	
大腸 (結腸)	...	...	...	346	542	694	1 031	1 344	1 670	1 929	2 165	2 105	
(直腸)	63	106	130	168	252	284	367	466	569	646	762	741	
肝臓	229	222	249	266	383	604	912	1 088	1 344	1 443	1 375	1 457	
すい臓	42	66	106	139	240	366	532	647	825	1 019	1 192	1 269	
気管・気管支及び肺	95	174	281	407	652	958	1 292	1 846	2 215	2 829	3 185	3 163	
乳房	40	38	77	110	158	199	253	362	511	607	677	726	
子宮	138	159	139	160	170	166	176	228	236	261	306	305	
白血病	58	84	98	158	169	200	230	287	276	302	337	376	
その他	369	530	710	724	1 053	1 323	1 735	2 452	3 136	3 652	4 129	4 345	
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
食道	5.0	4.9	5.2	4.5	3.8	4.0	3.8	3.8	3.8	4.1	4.0	3.7	
胃	52.4	47.8	43.8	41.3	33.9	28.4	23.9	20.7	18.6	16.7	15.2	15.8	
大腸 (結腸)	...	...	...	8.1	10.1	10.3	12.1	12.3	12.7	12.7	13.1	12.3	
(直腸)	2.6	3.6	3.7	3.9	4.7	4.2	4.3	4.3	4.3	4.3	4.6	4.3	
肝臓	9.4	7.6	7.1	6.2	7.1	9.1	10.7	10.0	10.2	9.5	8.3	8.5	
すい臓	1.7	2.3	3.0	3.3	4.4	5.5	6.2	5.9	6.3	6.7	7.2	7.4	
気管・気管支及び肺	3.9	6.0	8.0	9.5	12.1	14.4	15.2	16.9	16.8	18.6	19.3	18.5	
乳房	1.7	1.3	2.2	2.6	2.9	3.0	3.0	3.3	3.9	4.0	4.1	4.3	
子宮	5.7	5.4	4.0	3.8	3.1	2.5	2.0	2.1	1.8	1.7	1.9	1.8	
白血病	2.4	2.9	2.8	3.7	3.1	3.0	2.7	2.6	2.1	2.0	2.0	2.2	
その他	15.2	18.2	20.2	17.0	19.5	19.8	20.4	22.4	23.8	24.0	25.0	25.5	

### (イ) 心疾患

心疾患による死亡数は9,543人で、死亡総数の17.2%を占めている。

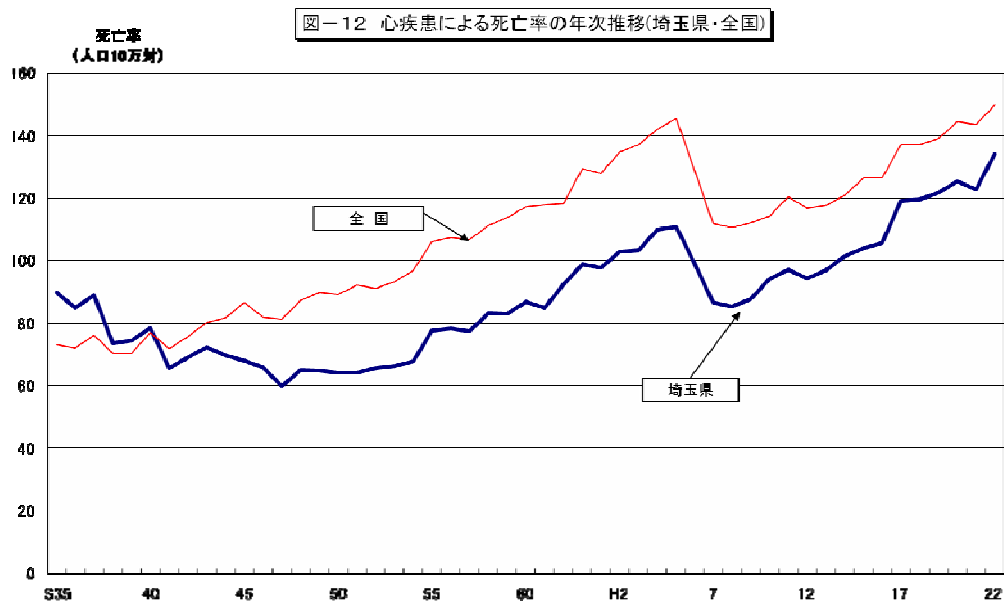
年齢階級別にみると、80～89歳が3,338人で最も多く、70～79歳が2,218人、90歳以上が2,028人の順となっている。

また、各年齢階級の死亡総数に占める割合は、90歳以上が22.1%で最も多く、80～89歳が19.4%、70～79歳が15.9%の順となっている。

死亡率（人口10万対）は134.3で、前年の122.9から11.4ポイント上昇した。全国は149.8である。

表－11 心疾患による死亡数及び割合（年齢階級別）

埼玉県										
	総数	0～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90～
死亡総数	55,487	318	366	825	1,483	3,274	8,868	13,963	17,213	9,177
心疾患による死亡数	9,543	13	23	98	216	418	1,191	2,218	3,338	2,028
（各年齢階級別割合）	100.0%	0.1%	0.2%	1.0%	2.3%	4.4%	12.5%	23.2%	35.0%	21.3%
死亡総数に占める割合	17.2%	4.1%	6.3%	11.9%	14.6%	12.8%	13.4%	15.9%	19.4%	22.1%





(ウ) 脳血管疾患

脳血管疾患による死亡数は5,711人で、死亡総数の10.3%を占めている。

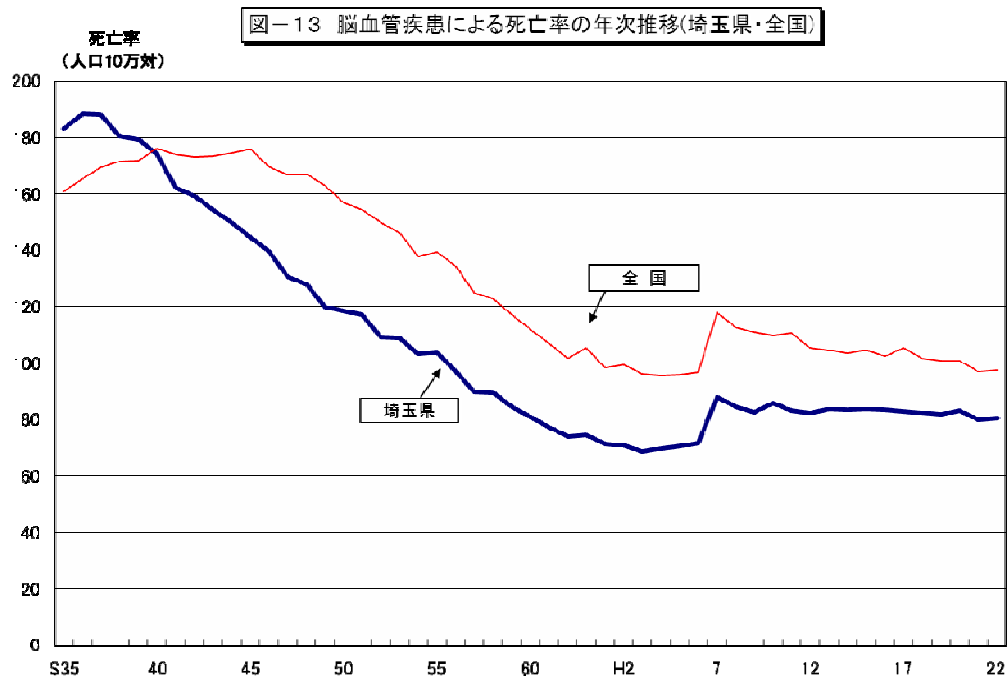
年齢階級別にみると、80～89歳が2,026人で最も多く、70～79歳が1,353人、90歳以上が1,098人の順となっている。

また、各年齢階級の死亡総数に占める割合は、90歳以上が12.0%で最も多く、80～89歳が11.8%、70～79歳が9.7%の順となっている。

死亡率（人口10万対）は、80.4で近年は横ばいに推移している。全国は97.7である。

表－12 脳血管疾患による死亡数及び割合（年齢階級別）

埼 玉 県										
	総数	0～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90～
死亡総数	55 487	318	366	825	1 483	3 274	8 868	13 963	17 213	9 177
脳血管疾患による死亡数	5 711	3	10	42	141	299	739	1 353	2 026	1 098
(各年齢階級別割合)	100.0%	0.1%	0.2%	0.7%	2.5%	5.2%	12.9%	23.7%	35.5%	19.2%
死亡総数に占める割合	10.3%	0.9%	2.7%	5.1%	9.5%	9.1%	8.3%	9.7%	11.8%	12.0%



## エ 不慮の事故

不慮の事故による死亡数は1,635人で、前年に比べ122人増加した。

年齢階級別にみると、80～89歳が445人で最も多く、次いで70～79歳が348人と続いている。

死亡率は、人口10万人に対し23.0で前年より1.5ポイント上昇した。

不慮の事故のうち交通事故による死亡数は300人で、前年に比べ32人減少した。死亡率は、人口10万人に対し4.2で前年に比べ0.5ポイント低下した。

全国は、不慮の事故32.1、交通事故5.7である。

表－13 不慮の事故、交通事故による死亡数及び割合（年齢階級別）

埼 玉 県										
	総数	0～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90～
不慮の事故による死亡数	1 635	38	59	75	81	103	275	348	445	211
(各年齢階級別割合)	100.0%	2.3%	3.6%	4.6%	5.0%	6.3%	16.8%	21.3%	27.2%	12.9%
不慮の事故のうち交通事故による死亡数	300	17	29	31	23	30	61	58	44	7
不慮の事故に占める交通事故の割合	18.3%	44.7%	49.2%	41.3%	28.4%	29.1%	22.2%	16.7%	9.9%	3.3%

表－14 不慮の事故、交通事故による死亡数の年次推移

		不慮の事故				交通事故						
		埼玉県		全 国		埼玉県			全 国			
		数	死亡率(人口10万対)	数	死亡率(人口10万対)	数	死亡率(人口10万対)	不慮の事故に占める割合	数	死亡率(人口10万対)	不慮の事故に占める割合	
S	35	970	39.9	38 964	41.7	468	19.3	48.2	13 429	14.4	34.5	
	40	1 207	40.0	40 188	40.9	671	20.3	55.6	16 257	16.5	40.5	
	45	1 599	41.4	43 802	42.5	983	25.4	61.5	21 535	20.9	49.2	
	50	1 201	24.9	33 710	30.3	628	13.0	52.3	14 206	12.8	42.1	
	55	1 018	18.8	29 217	25.1	488	9.0	47.9	11 752	10.1	40.2	
	60	1 085	18.5	29 597	24.6	587	10.0	54.1	12 660	10.5	42.8	
	H	2	1 262	19.7	32 122	26.2	703	11.0	55.7	14 631	11.9	45.5
		7	1 575	23.5	45 323	36.5	683	10.2	43.4	15 147	12.2	33.4
		12	1 405	20.4	39 484	31.4	541	7.9	38.5	12 857	10.2	32.6
		13	1 570	22.7	39 496	31.4	568	8.2	36.2	12 378	9.8	31.3
14		1 442	20.8	38 643	30.7	491	7.1	34.0	11 743	9.3	30.4	
15		1 548	22.3	38 714	30.7	538	7.7	34.8	10 913	8.7	28.2	
16		1 385	19.9	38 193	30.3	421	6.0	30.4	10 551	8.4	27.6	
17		1 577	22.6	39 863	31.6	472	6.8	29.9	10 028	7.9	25.2	
18		1 475	21.1	38 270	30.3	412	5.9	27.9	9 048	7.2	23.6	
19		1 460	20.8	37 966	30.1	354	5.1	24.2	8 268	6.6	21.8	
20		1 413	20.1	38 153	30.3	342	4.9	24.2	7 499	6.0	19.7	
21		1 513	21.5	37 756	30.0	332	4.7	21.9	7 309	5.8	19.4	
22	1 635	23.0	40 732	32.2	300	4.2	18.3	7 222	5.7	17.7		

注 昭和35年から平成2年は「自動車事故」の数、平成7年以降は「交通事故」の数である。

## オ 自殺

自殺による死亡数は1,642人(男性1,171人、女性471人)で、前年より78人減少した。死亡率は、人口10万人に対し23.1で、前年の24.4を1.3ポイント下回った。

年齢階級別にみると、60～69歳が321人（19.5%）で最も多く、次いで70歳以上が285人で（17.4%）となっている。

表－15 自殺による死亡数及び死亡率の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	20	21	22
数	埼玉県	413	375	480	723	787	909	885	1 043	1 414	1 559	1 643	1 720	1 642
	全国	20 143	14 444	15 728	19 975	20 542	23 383	20 088	21 420	30 251	30 553	30 229	30 707	29 554
率	埼玉県	17.0	12.4	12.4	15.0	14.5	15.5	13.8	15.6	20.6	22.4	23.4	24.4	23.1
	全国	21.6	14.7	15.3	18.0	17.7	19.4	16.4	17.2	24.1	24.2	24.0	24.4	23.4

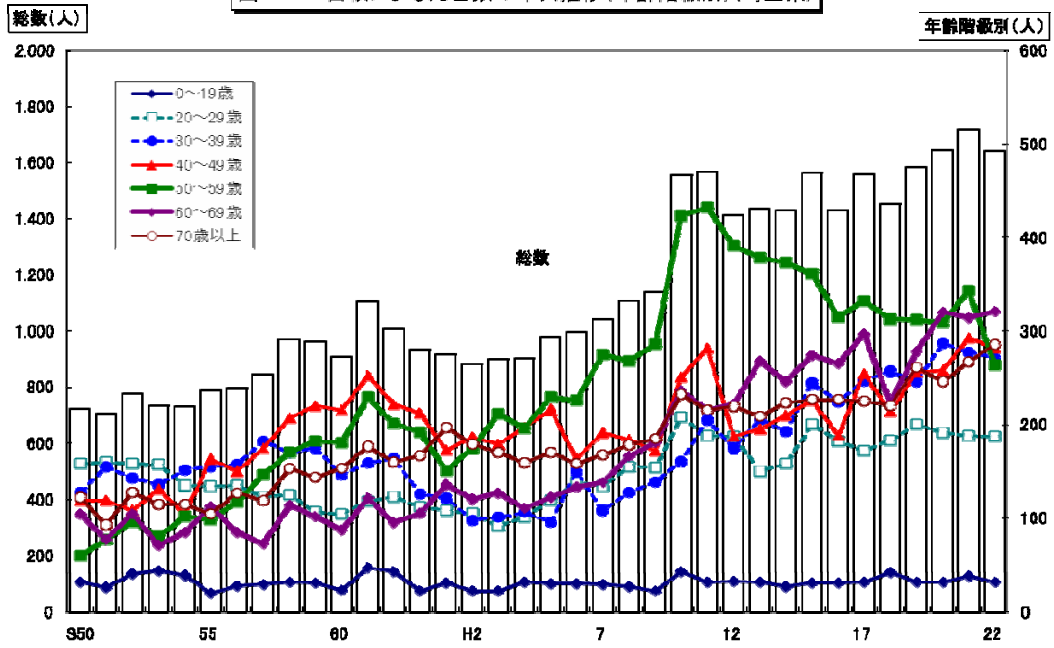
埼玉県

表－16 自殺による死亡数及び割合の年次推移（年齢階級別）

		総数	0～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	
		人	人	人	人	人	人	人	人	
S	35	413	47	143	45	37	44	47	50	
	40	375	32	88	65	36	37	59	58	
	45	480	28	117	81	53	57	62	82	
	50	723	32	158	128	119	60	104	122	
	55	787	20	134	155	163	99	112	104	
	60	909	23	104	146	215	181	87	153	
	H	2	885	22	105	98	186	175	120	179
		7	1 043	29	134	108	191	275	138	168
		12	1 414	33	187	175	187	391	222	219
		17	1 559	32	172	247	254	332	297	225
		18	1 452	42	183	257	214	313	223	220
		19	1 585	32	200	246	256	312	278	261
20		1 643	32	191	287	258	309	320	246	
21		1 720	38	188	277	293	343	314	267	
22		1 642	32	187	272	281	264	321	285	
		%	%	%	%	%	%	%	%	
S	35	100.0	11.4	34.6	10.9	9.0	10.6	11.4	12.1	
	40	100.0	8.5	23.5	17.3	9.6	9.9	15.7	15.5	
	45	100.0	5.8	24.4	16.9	11.0	11.9	12.9	17.1	
	50	100.0	4.4	21.8	17.7	16.5	8.3	14.4	16.9	
	55	100.0	2.6	17.0	19.7	20.7	12.6	14.2	13.2	
	60	100.0	2.5	11.4	16.1	23.7	19.9	9.6	16.8	
	H	2	100.0	2.5	11.9	11.1	21.0	19.8	13.5	20.2
		7	100.0	2.8	12.8	10.4	18.3	26.4	13.2	16.1
		12	100.0	2.3	13.2	12.4	13.2	27.7	15.7	15.5
		17	100.0	2.1	11.0	15.8	16.3	21.3	19.1	14.4
		18	100.0	2.9	12.6	17.7	14.7	21.6	15.4	15.2
		19	100.0	2.0	12.6	15.5	16.2	19.7	17.5	16.5
20		100.0	1.9	11.6	17.5	15.7	18.8	19.5	15.0	
21		100.0	2.2	10.9	16.1	17.0	19.9	18.3	15.5	
22		100.0	1.9	11.4	16.6	17.1	16.1	19.5	17.4	

埼玉県

図-14 自殺による死亡数の年次推移(年齢階級別)(埼玉県)



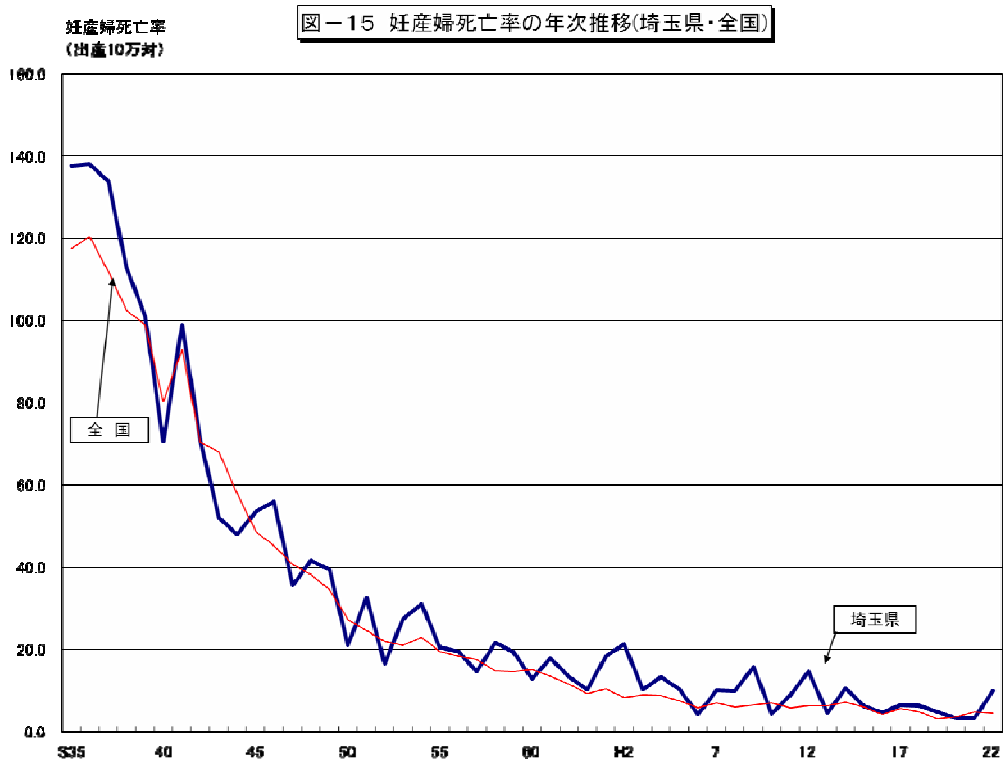
## カ 妊産婦死亡

妊産婦死亡は、6人であった。妊産婦死亡率は、出産10万人（胎）に対し9.9であった。

表－17 妊産婦死亡数及び死亡率の年次推移

		埼玉県												
		S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	20	21	22
数	埼玉県	65	50	51	21	16	9	14	7	10	4	2	2	6
	全国	2 097	1 597	1 008	546	323	226	105	85	78	62	39	53	49
率	埼玉県	137.7	70.6	53.5	21.0	20.5	12.9	21.3	10.0	14.6	6.5	3.2	3.3	9.9
	全国	117.5	80.4	48.7	27.3	19.5	15.1	8.2	6.9	6.3	5.7	3.5	4.8	4.5

注 率は出産(出生+死産)10万対。平成22年の妊産婦死亡数は死因分類番号15000「妊娠、分娩及び産じょく」の数を用いた。



キ 市町村別にみた死亡

市町村別にみると、低率順では和光市(5.2)、伊奈町(5.6)、朝霞市(5.9)の順である。  
また、高率順では、東秩父村(18.3)、皆野町(16.5)、長瀨町(14.8)の順である。

表－18 市町村別にみた死亡率（低率順）

埼 玉 県								
順位	市町村	死亡率	順位	市町村	死亡率	順位	市町村	死亡率
1	和光市	5.2	25	ふじみ野市	7.7	49	行田市	10.0
2	伊奈町	5.6	26	宮代町	7.7	50	本庄市	10.6
3	朝霞市	5.9	27	川越市	7.9	51	小川町	10.7
4	戸田市	6.3	28	桶川市	8.0	52	越生町	10.8
5	鶴ヶ島市	6.4	29	北本市	8.0	53	羽生市	10.8
6	志木市	6.7	30	春日部市	8.1	54	鳩山町	11.0
7	草加市	6.8	31	杉戸町	8.2	55	嵐山町	11.3
8	吉川市	6.8	32	鴻巣市	8.3	56	秩父市	12.9
9	新座市	7.0	33	久喜市	8.4	57	美里町	12.9
10	三芳町	7.0	34	蕨市	8.6	58	神川町	12.9
11	越谷市	7.1	35	鳩ヶ谷市	8.6	59	横瀬町	13.6
12	さいたま市	7.1	36	東松山市	8.8	60	ときがわ町	13.6
13	三郷市	7.2	37	日高市	8.8	61	小鹿野町	14.8
14	所沢市	7.2	38	毛呂山町	8.9	62	長瀨町	14.8
15	坂戸市	7.3	39	吉見町	8.9	63	皆野町	16.5
16	富士見市	7.3	40	蓮田市	9.1	64	東秩父村	18.3
17	上尾市	7.3	41	上里町	9.2			
18	滑川町	7.3	42	幸手市	9.2			
19	入間市	7.3	43	飯能市	9.2			
20	白岡町	7.4	44	川島町	9.4			
21	川口市	7.5	45	熊谷市	9.5			
22	八潮市	7.5	46	深谷市	9.5			
23	松伏町	7.5	47	寄居町	9.6			
24	狭山市	7.6	48	加須市	9.7			

注 率は人口千対